

令和 7 年度

年間授業計画

教科

家庭

科目

家庭基礎

教科： 家庭

科目： 家庭基礎

単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年

教科担当者：	1組 富樫・伊藤 2組 富樫・伊藤 3組 富樫・伊藤 4組 富樫・伊藤 5組 富樫・伊藤 6組 富樫・蜂屋
使用教科書：	家庭基礎 つながる暮らし 共に創る未来（教育図書） 生活学Navi（実教）

教科 家庭 の目標：

【知識及び技能】	生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な理解を深め、それらに係る技能を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】	家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を深めるとともに、科学技術者の育成に係る技能を身に付けるようにする。	生活の中から課題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	単元 1 生活設計	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識・技能】				
	青年期とはどのような時期なのか知り、青年期に必要な自立について考えることができる。	青年期の自立 社会の変化と家族など	青年期の意味と自立への課題について理解し、今後の人生選択に関係する基礎的・基本的な知識を身につけている。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考・判断・表現】	○	○	○	4
	社会と生き方の多様性を把握するとともに、他社との比較を通して自己を客観的に見る視点を養う。	教科書 プリント	個人の生き方や性のあり方など多様性の尊重について理解している。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【主体的に学習に取り組む態度】				
	今後の自立のためには生活スキルが必要であり、また他の人々との支えあいや社会の支援の中で成り立つことを理解する。		自立の意味を理解しており、青年期の課題としてとらえ、現在の自分の課題をみいだすことができる。				
	単元 2 保育	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識・技能】				
	子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義を知り、子どもにとっての良い環境を整えるための知識を得ることができる。	子どもの心とからだの発達 生活と遊びなど	子どもの生活に関わる基礎的な知識やその援助の方法などを理解している。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考・判断・表現】	○	○	○	10
	子どもの特徴や感性に気づく。	教科書 プリント 作品	子どもや子育てに関心をもち、将来の親としてなど、子どもが成長するためにどうしたらいいのかを、意欲的に考えようとする。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【主体的に学習に取り組む態度】				
	子どもの遊びを通じて、子どもが安心して遊びを楽しむための工夫を考え、実践することができるようにする。		子どもの遊びに関わる実習などを行い、気づいたことなどをまとめる。				
	定期考査（第1学期中間考査）/返却と解説						
	単元 3 高齢者	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識・技能】				
	高齢社会の現状と課題について理解する。	高齢社会の現状と課題 など	高齢期の問題について、自らが将来直面することとして、高齢者の生活上や福祉の問題を考えることができる。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考・判断・表現】	○	○	○	4
	高齢者について調べ関心を持つ。	教科書 プリント	高齢者に対する自分の現在のイメージなどについて意見や考えをまとめられる。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【主体的に学習に取り組む態度】				
	高齢者の心身の特徴を理解する。		高齢者の尊厳や人権について理解し、高齢者の生活支援に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。				
	単元 4 社会福祉	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識・技能】				
	社会福祉と社会保障制度について理解する。	福祉と社会保障制度 共生社会など	貧困や障害者の現状、社会保障制度とその他の支援の内容を理解し、それについての基礎的・基本的知識を身につけている。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考・判断・表現】	○	○	○	4
	共生社会とその理念を理解する。	教科書 プリント	共生社会のあり方の基本概念を理解し、それらについての基礎的・基本的な知識を身につけている。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【主体的に学習に取り組む態度】				
	ボランティア活動や、持続可能な共生社会をめざした取り組みについて理解する。		ノーマライゼーションなどの基本概念を理解し、それらについての基礎的・基本的な知識を身につけている。				
	定期考査（第1学期期末考査）/返却と解説						

令和	7	年度	年間授業計画	教科	家庭	科目	家庭基礎
教科：	家庭	科目：	家庭基礎	単位数：	2	単位	
対象学年組：	第 2 学年						
教科担当者：	1組 富樫・伊藤	2組 富樫・伊藤	3組 富樫・伊藤	4組 富樫・伊藤	5組 富樫・伊藤	6組 富樫・伊藤	6組 富樫・蜂屋
使用教科書：	家庭基礎 つながる暮らし 共に創る未来（教育図書） 生活学Navi（実教）						

教科	家庭	の目標：
【知識及び技能】	生活にわたる養育と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の役割、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な理解を深め、それらに係る技能を身に付ける。	
【思考力、判断力、表現力等】	家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、生活を見通して生活の課題を解決する力を養う。	
【学びに向かう力、人間性等】	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。	

科目	家庭基礎	の目標：	
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、科学技術者の育成に係る技能を身に付けるようにする。	生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
2 学 期	単元 5 食生活	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識・技能】				
	健康な食生活を営むために必要な栄養、食品などの基礎的・基本的な知識と技術を理解する。	栄養素と食品 食事をつくる など	バランスのよい食生活の重要性を理解している。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考・判断・表現】	○	○	○	8
	さまざまな観点から日ごろの食生活を振り返ることで課題を見つけることができるようにする。	教科書 プリント	食生活や食物・食品に関心をもち、健康を維持と精神的な豊かさを向上させるも理解し、意欲的に取り組もうとする。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【主体的に学習に取り組む態度】				
	栄養や食品についての知識を元に、食品の特性をいかした調理法について理解し、実践できるようにする。		調理実習において、基礎的な技術が習得できており、知識と融合させて調理をする行動ができる。				
	単元 6 食生活	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識・技能】				
	健康な食生活を営むために必要な栄養、食品などの基礎的・基本的な知識と技術を理解する。	栄養素と食品 食事をつくる など	バランスのよい食生活の重要性を理解している。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考・判断・表現】	○	○	○	8
	さまざまな観点から日ごろの食生活を振り返ることで課題を見つけることができるようにする。	教科書 プリント	食生活や食物・食品に関心をもち、健康を維持と精神的な豊かさを向上させるも理解し、意欲的に取り組もうとする。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【主体的に学習に取り組む態度】				
	栄養や食品についての知識を元に、食品の特性をいかした調理法について理解し、実践できるようにする。	栄養計算など	調理実習において、基礎的な技術が習得できており、知識と融合させて調理をする行動ができる。				
	定期考査（第2学期中間考査）/返却と解説						
	単元 7 衣生活	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識・技能】				
	繊維から衣服になるまでの成り立ちを理解する。	衣服の材料 作品製作 など	用途や着用目的に合った被服材料の選択や管理ができる。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考・判断・表現】	○	○	○	8
	主な衣服の機能と、着装の際のポイントについて理解する。	教科書 プリント 作品	衣服の機能について理解し、TPOIに応じた適切な衣服の選択ができる。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【主体的に学習に取り組む態度】				
	材料や構成についての知識を元に、特性をいかした製作方法について理解し、実践できるようにする。		被服実習において、製作のための基礎的な技術が習得できており、知識と融合させて、行動ができる。				
	単元 8 衣生活	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識・技能】				
	繊維から衣服になるまでの成り立ちを理解する。	衣服の材料 作品製作 など	用途や着用目的に合った被服材料の選択や管理ができる。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考・判断・表現】	○	○	○	8
	主な衣服の機能と、着装の際のポイントについて理解する。	教科書 プリント 作品	衣服の機能について理解し、TPOIに応じた適切な衣服の選択ができる。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【主体的に学習に取り組む態度】				
	材料や構成についての知識を元に、特性をいかした製作方法について理解し、実践できるようにする。		被服実習において、製作のための基礎的な技術が習得できており、知識と融合させて、行動ができる。				
	定期考査（第2学期期末考査）/返却と解説						

令和 7 年度

年間授業計画

教科

家庭

科目

家庭基礎

教科： 家庭

科目： 家庭基礎

単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年

教科担当者：	1組 富樫・伊藤	2組 富樫・伊藤	3組 富樫・伊藤	4組 富樫・伊藤	5組 富樫・伊藤	6組 富樫・伊藤	6組 富樫・蜂屋
使用教科書：	家庭基礎 つながる暮らし 共に創る未来（教育図書） 生活学Navi（実教）						

教科 家庭 の目標：

【知識及び技能】	生活にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の役割、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な理解を深め、それらに係る技能を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を深めるとともに、科学技術者の育成に係る技能を身に付けるようにする。	生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
3 学 期	単元 9 住生活	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識・技能】				
	住まいとその役割について理解し、将来の適切な選択につなげられるようにする	住まいの選択 住環境の安全・安心 など	住まいと住まい方に関心をもち、住生活を安全で人間らしい充実したものにするために必要な知識・技術を身につけている。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考・判断・表現】	○	○	○	4
	ひとり暮らしのイメージができるようにする。	教科書 プリント	ひとり暮らしのための住まいの調査から、間取りや立地などの問題点を読み取ることができる。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【主体的に学習に取り組む態度】				
	安全な住まい・住環境の確保には、多様な側面からの取り組みが必要となることを理解する。		健康で安全・快適な住環境や地域環境についての基礎的・基本的な知識を身につけている。				
	単元 10 消費者	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識・技能】				
	家計と経済のしくみを理解する。	暮らしと経済 意思決定と契約 など	家計の管理、家庭経済と国民経済の関わりについて基礎的・基本的な知識を身につけている。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考・判断・表現】	○	○	○	6
	商品の購入における契約のプロセスについて理解する。	教科書 プリント	問題解決のために、情報の選択・発信や購入の選択など、自ら主体的に判断し意思決定する力を身につけている。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【主体的に学習に取り組む態度】				
	消費者を守る法律、支援制度について理解する。	カード利用シュミレーション	家計と社会のつながりについて理解し、将来の経済計画を立てることができる。				
	単元 11 消費者	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識・技能】				
	消費者問題の現状と課題を知り、かきこい消費者になる方策を理解する。	暮らしと経済 消費者問題の現状と課題	消費者問題の現状について理解し、被害にあわない具体的な対策について考えることができる。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考・判断・表現】	○	○	○	4
	消費者問題の現状と課題について考え、理解する。	教科書 プリント	消費者保護の仕組みのついて理解し、正しい情報の取捨選択ができる。またその情報について正しく発信することができる。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【主体的に学習に取り組む態度】				
	消費者問題の現状と課題について自分のこととして捉え、人の役に立つ提案や具体的対策を立てることができる。		消費をめぐるトラブルに直面した場合の解決方法や手段を身につけている。				
	単元 12 環境・共生	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識・技能】				
	環境問題を考え、自分たちの生活との関わりとを理解する。	環境問題を考える 持続可能な社会	普段の生活の中から、様々な環境問題について考え、理解することができる。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考・判断・表現】	○	○	○	2
	環境問題を自分たちの問題として考え、自分たちの生活との関わりの中で具体的解決策を立てることができる。	教科書 プリント	様々な環境問題を自分のこととしてとらえ、問題解決のための対策を考えることができる。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【主体的に学習に取り組む態度】				
	環境問題を世の中全体の問題として考え、世の中に役立つ具体的解決策を立てることができる。		持続可能な社会に向けて、自分自身で取り組めることについて具体的な案を提案し、発信することができる。				
	定期考査（学年末考査）/返却と解説						